

第31回 国公立大学「海外遠征」実施報告

第31回の国公立大学海外遠征が2025年2月24日～3月8日に実施されました。今回はドイツのデュッセルドルフとグレンツァオに遠征し、以下の男女総勢15名が参加しました。

<男子11名>

千葉朝陽（高知工科大学2年）、井上晴貴（京都大学2年）、岩田朋弥（埼玉大学2年）、大恵健人（徳島大学2年）、矢田幹太郎（九州大学2年）、長壁俊弥（新潟大学2年）、本坊啓史朗（東京科学大学2年）、松島一史（九州大学2年）、松本琉我（広島大学2年）、鈴木慎也（千葉大学3年）、田川実樹（東京大学2年）

<女子4名>

大里心愛（広島大学1年）、神谷桜子（東京大学3年）、中田侑里（横浜国立大学3年）、松本えりあ（神戸大学2年）

<詳細日程>

- 2月24日 出国（成田空港→アブダビ空港→デュッセルドルフ空港）
- 2月25日 デュッセルドルフ空港到着、ボルシア・デュッセルドルフでトレーニング
- 2月26日 ボルシア・デュッセルドルフでトレーニング
- 2月27日 ボルシア・デュッセルドルフでトレーニング、ケルン観光、ブンデスリーガ観戦
- 2月28日 ボルシア・デュッセルドルフでトレーニング、ハイデルベルグへ移動
- 3月 1日 ハイデルベルグ観光、フランクフルトへ移動
- 3月 2日 フランクフルト観光、グレンツァオへ移動
- 3月 3日～6日 グレンツァオでトレーニング
- 3月 7日 フランクフルト空港へ移動、出国（フランクフルト空港→アブダビ空港→成田空港）
- 3月 8日 帰国、解散

遠征前半は、ボルシア・デュッセルドルフにて、主にMicheal Kalaitzidis氏の指導により練習を行いました。練習内容としては、フォアバックや、台上、サーブレシーブなどが偏らないよう幅広い練習メニューが指定されていました。指導内容としては、ラケットを台から下げない、前陣のフォアハンドは体を使い過ぎずに速い打点で、バックハンドは手首を使い過ぎない、などを指導されていた選手が多い印象でした。ウォームアップや練習の終わりにはゲーム性のあるプログラムも多く用意されており、楽しく練習に取り組んでいました。3日目にはケルン観光とブンデスリーガ観戦をすることができました。ケルン市街はカーニバルが開催されており、仮装してお酒を飲む人や、演奏しながら練り歩く人であふれていました。普段では体験できない海外のお祭りの雰囲気を楽しみました。さらにその夜にはブンデスリーガの観戦に招待していただきました。残念ながら今シーズンで引退のティモ・ボル選手の出場はありませんでしたが、チウ・ダン選手やオフチャロフ選手、シェルバリ選手やフィルス選手などのトップ選手のプレーを間近で見ることができ、さらにはサインを貰って写真をとることもできたため、学生たちはとても興奮した様子で、非常に良い経験になったと思います。

次に、今回の遠征では3月1・2日に練習場が確保できなかったため、ハイデルベルグとフランクフルトを観光しました。ハイデルベルグでは、ハイデルベルク城や学生牢など歴史ある観光名所を見学しました。一部の学生たちは隣町へ行き、世界遺産になっている現地の温泉文化を楽しみました。また、フランクフルトではカーニバルが開催されており、綺麗な街並みとともに熱気に満ちたお祭りの雰囲気を味わうことができました。

遠征後半は、グレンツァオにて主にAnton Stefko氏の指導により練習を行いました。こちらのクラブでは、ストレートを意識した練習や、お互いにドライブを掛け合う練習、フットワーク練習が特長的でした。指導内容としては、上体が浮かないようにすること、足を動かすこと、回転をかけることなどの指導が多いように感じました。練習場は1日中自由に使えるため、選手たちは自主練習として個別に教え合ったり、ゲーム練習を繰り返したりして練習に励んでいました。また、こちらのホテルにはプールやサウナ、スポーツジムなどの施設が併設されていたため、選手たちは空き時間に各自でこれらの施設を利用してリフレッシュできていたように思います。

最後に、今回の遠征では練習も観光もできて結果的には満足度の高い遠征になったかと思いますので、今回の遠征で得た繋がりや経験をもとに国公立大学の卓球界がさらに盛り上がることを祈っておりますとともに、お世話になった国公立大学卓球連盟の皆様や現地のクラブの皆様にご心より御礼を申し上げます。